

# 報 告 書

平成30年8月20日

座間市議会

議長 京 免 康 彦 殿

基地政策特別委員会

委員長 沖 本 浩 二

基地政策特別委員会で委員を派遣しました基地政策に関する事務調査（行政視察）について、別紙のとおり復命がありましたので報告します。

# 復 命 書

平成30年8月20日

座間市議会議長 京 免 康 彦 殿

基地政策特別委員会委員長 沖 本 浩 二  
副委員長 松 橋 淳 郎  
委 員 竹 田 陽 介  
委 員 高 波 貴 志  
委 員 安 海 のぞみ  
委 員 星 野 久美子  
委 員 上 沢 本 尚

次のとおり報告します。

- 1 視察日時 平成30年6月26日(火)
- 2 視 察 先 在日米陸軍キャンプ座間及び厚木航空基地
- 3 視察項目 基地政策に関する事務調査
- 4 概 要 別紙のとおり

平成30年7月9日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

委員長 沖本 浩二

## 視察所感

### (1) 「在日米陸軍キャンプ座間」について

久しぶりに基地政策特別委員会の一員として、在日米陸軍キャンプ座間施設内で担当者からブリーフィングを受け、意見交換やバスでの基地内施設見学に参加した。

個人的にここで記しておきたいこととしては、在日米陸軍キャンプ座間の組織概要や取り組みはさておき、こうした視察をする必要性や目的を今後はあらためるべきだと考えている。

座間市議会では昨年「基地対策特別委員会」という名称から「基地政策特別委員会」にあらため、キャンプ座間及び厚木基地に関する諸政策に対し、積極的に調査研究し、対処していくことを目的として設置している。今回の視察事項もこれまでと変わらず「在日米陸軍キャンプ座間及び厚木航空基地に対する理解を深めるための施設見学及び意見交換」を目的として実施している。基地対策特別委員会の中でも議論されたが、基地が在ることに対しては、ネガティブな意見もあればポジティブな意見がある中で、今後の委員会として「テーマ」（例：基地内のスポーツ施設の活用）を決め、それを議員間で議論し、委員会さらには議会としての政策提言として、行政あるいは国へ求めても良いのではないかと考える。視察についても、そうしたテーマに基づいた施設見学や意見交換を実施すべきではないかと考える。

### (2) 「厚木航空基地」について

在日米陸軍キャンプ座間同様、厚木航空基地施設内で担当者からブリーフィングを受け、意見交換やバスでの基地内施設見学に参加した。厚木航空基地は在日米軍再編に伴い、私の故郷でもある山口県岩国市に在る岩国基地へ約60機の艦載機の移駐が3月に完了した。ブリーフィングでも述べられていたが、移駐完了に伴い艦載機の運用が大幅に減少することから、騒音被害は軽減されると考えられる。しかし、引き続き海上自衛隊の航空機および米海軍のヘリコプター部隊が使用するため重要な施設であることから、今後の運用には近隣自治体から注視されることになる。そうした意味では先に記した在日米陸軍キャンプ座間とは異なり、近隣自治体議会との連携した政策提言が必要となる。現在、基地周辺8市議会の議長、基地所管委員会委員長で構成される「厚木基地周辺市議会基地対策協議会」が設置されているが、こうした組織と各市議会での情報の共有化と議会としての政策の方向性を示せるような仕組みも必要ではないかと考える。

平成30年6月26日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

松橋 淳郎

視察所感

(1) 基地視察 在日米陸軍キャンプ座間

基地政策特別委員会において、在日米陸軍キャンプ座間を視察しました。

まずは、面積約230万㎡、座間市域分約56万6千㎡（約24.8%）の敷地内にある、南キャンプ側、米国ワシントンにある国防省の建築を模造した通称「リトルペンタゴン」と呼ばれている米陸軍司令部を訪問しました。出迎えて頂いたのは、キャンプ座間FXDと呼ばれる管轄の中の、軍事政治部の方。2階の応接室に案内される途中の廊下には、現在の米陸軍司令官、ジェームス・パスカレット大佐から、戦後、日本を民主国家へと導いた歴代のダグラスマッカーサー元帥の写真が、また、廊下の片隅には、現、陸上幕僚長 山崎幸二氏。および現、陸上総隊日米共同部司令官、野村悟氏の若き研修時代の写真が飾られており、この司令部（リトルペンタゴン）が、日米安保に基づき重要な施設であることを肌で感じ取ることができます。応接室では、広報部の方からの挨拶があり、挨拶の中で市民交流の重要性をお話しされておりました。

ブリーフィングでは、軍事政治部の方からモニターを使い、米陸軍の駐留の経緯や理由。国内においての米陸軍の配置図を下に、活動内容、日米共同のありかた、さらには、日本を取り巻く軍事環境などを分かりやすく説明を頂きました。その中で、東日本大震災の時のトモダチ作戦をはじめ、熊本地震では即応に支援物資を運ぶための米陸軍の飛行機を貸し出すことなど、アジアを取り巻く平和の維持のみではなく国内においても日米共同の取り組みが行われていることをブリーフィングの中報告がありました。帝国陸軍士官学校からはじまった、座間の基地行政、今回の視察において、米陸軍の組織づくりをはじめ、駐留の趣旨、日米共同のありかた、さらには、インド太平洋（旧アジア太平洋）地域での拠点となるキャンプ座間が、座間の歴史から成り立っている事をあらためて勉強することができた貴重な視察でした。

(2) 基地視察 在日米海軍厚木基地

基地政策特別委員会において、米海軍厚木基地を視察いたしました。生まれてはじめて厚木基地を訪問するにあたり、子どもの頃から柵の外から見た基地の中の視察、好奇心に満ちての視察となりました。厚木基地は、キャンプ座間と同様、昭和46年に日本の海上自衛隊との共同使用がはじまり、総面積約506haのうち約395ha（全体の約78%）が綾瀬市、残り

22%が大和市であります。この基地で迎えて頂いたのが、座間市のヒマワリの植栽や街の美化活動に米海軍の方々と度々、ボランティアとして参加してくれる、渉外事務官の方。街中でよく出くわす方の出迎えであった。まずは、司令部の建物の会議室でブリーフィングを行うことに、建物自体は、キャンプ陸軍司令部と比べコンパクトな設計。ブリーフィングでは、広報部の気さくでフレンドリーな広報部の方と、かつてキャンプ座間渉外部で仕事経験のある方から、厚木基地の概要について説明があり、米海軍の創設から、第7艦隊の活動地域ならびに、飛行機について、また日本との共同使用は、自衛隊51%、米海軍49%と、バランスよく基地を活用しているとのことでした。

なかでも印象的なものの一つに、厚木基地の米軍人および家族たちと周辺近隣市との地域交流、文化交流のありかたがありました。司令官である大佐みずから、地域の掃除に参加、大和の民間ラジオにもたびたび出演して広報PRにあたっています。さらには、さがみ野での美化活動をはじめ、基地で働く日本人職員も気さくでホスピタリティです。日本でもそうであるが、陸軍と海軍との教育および環境からくるものではないかと考えます。

最後の質問応答のなかでは、どんな質問に対しても、真剣にうけとめ応答している、広報部の方の言葉の中で「市民の事を考える事、そして国防に関する事、これらのバランスをいつも考えているのでご理解を頂きたい」と丁寧な対応に感銘を受けた視察でした。

最後に2つの米軍施設を視察し、地域交流といった点で、座間市において、民間主導または行政を踏まえ日米共同による新たな取り組みができるのではないかと厚木基地と近隣市との取り組みから実感をしました。

平成30年6月29日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

竹田 陽介

## 視察所感

### (1) 在日米陸軍キャンプ座間について

これまでのキャンプ座間視察でも感じたことだが、やはりアメリカ軍並びにアメリカ人の守るという視点が、日本人とは全く異なるということを改めて実感した。それは、どういうことかという、日本にとって同盟というアメリカという発想になると思うが、アメリカにとっての同盟は、どの同盟だという発想であり、日本なのか韓国なのか、それともそれとは違う国なのかとなること。これは世界の平和をその同盟国とどのように維持させていくのかという考えから生まれるものではないかと認識する。日本人にとって守るという日本を守るという発想であると思うのですが、アメリカ人にとって守るという、もちろん最終的にはアメリカを守るという発想であり、その考えは日本人と相違ないと思うのだが、『守る→自国』だけでなく『守る→世界の平和→アメリカ』という過程が入っているのではないかと感じた。いずにせよ、世界情勢が劇的に変貌していく中で、日本としてどのような役割を世界で果たしていくのかということは、今一度考え直す時ではないかと思う。

### (2) 厚木航空基地について

こちらも同じことを感じるのだが、地域とのつながりが強いということを実感する。地域の清掃活動といったボランティア活動をはじめ、地元・綾瀬市の小学校で実施されている英語支援という活動は、ぜひとも座間市においても実現したい事業のひとつだ。先日、青森県の三沢基地に伺った時にも感じたことだが、基地を抱える地域という、どうしてもマイナスというイメージを持たれがちだが、こういったプラスの面があるということも発信し、地域資源と捉え、活かしていくことが、日米の今後の連携並びに地域理解において重要かつ不可欠な要素であると改めて認識した。ぜひとも、綾瀬市や三沢市同様に、座間市においてもキャンプ座間との連携並びに地域理解を深めるという点において、基地を活かした英語支援実現に尽力できればと考える。

平成30年6月27日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

高波 貴志

## 視察所感

### (1) 在日米陸軍キャンプ座間について

キャンプ座間内へは昨年、企画総務常任委員会の所管事務調査で伺わせていただきましたが、この時は陸上自衛隊第4施設群の広報の方が対応して下さり、陸上自衛隊座間駐屯地の説明であったことから今回のキャンプ座間内視察は、基地内の約98%を使用管理している在日米陸軍基地管理本部の広報室渉外担当の方がキャンプ座間内の概要・施設内説明をして下さり、より深くキャンプ座間について知る事ができました。

その中でも、座間市域内に所在する在日米陸軍司令部（通称リトルペンタゴン）と呼ばれている建物内でブリーフィングを受け、在日米陸軍の日本での役割・自衛隊との連携、どのような指揮系統がとられているのか説明を頂きました。

この在日米陸軍司令部は横田に所在する在日米軍の陸軍部隊司令部及び米太平洋軍の隷下部隊として設置され、在日米陸軍の中核として指揮命令系統の統轄、各上部組織や自衛隊との連絡調整などの役割を担っているとの事でした。

今回、キャスナー飛行場などの施設見学はありませんでしたが、自然災害時において基地が所在する本市が被災した場合、飛行場を活用したヘリコプターなどによる救援物資や人員の輸送に大きなメリットがあり、有事の際には遺憾なく基地の持つ能力を発揮してもらいたいと強く感じました。

### (2) 厚木航空基地について

今回私自身、私的以外では初めてとなる厚木基地内の視察であり、在日米海軍厚木航空施設渉外担当の方から米海軍及び厚木基地の役割について概要説明を伺いました。

厚木基地の敷地面積は154万坪あり、110機の機体保持が可能で約8千人が従事しており、横須賀を母港とする空母ロナルド・レーガンの艦載機部隊（第5空母航空団）及び駐留部隊の支援、物資人員輸送の拠点、海上自衛隊との連携が主な任務であるそうです。

有事の際には、約2.5キロの滑走路を持つ飛行場の能力を発揮し、緊急時の人員と物資の輸送拠点の中核として機能するとの事で、県内唯一の固定翼ジェット機が離着陸できる航空施設であり、県内で地震等の災害発生時には非常に頼もしい施設でもあります。

また、非常にボランティア活動も盛んに取り組まれており、綾瀬市内の小中学校との交流や現在、私自身が会長を務めている商店街のお祭りにも出演されたり、さがみ野・東原地域の花植えなどの作業ボランティアを中学生・地域住民とともに活動して下さっており、改めてこの場をお借りし感謝申し上げます。

このような活動を通し、より深くお互いの事を知る機会が持てるものであり、日米友好の場が更に広がる事を切に願っております。



平成30年8月1日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

安海 のぞみ

## 視察所感

### (1) 在日米陸軍キャンプ座間について

米国にとって数ある同盟国の中で、日本に米軍が駐留し続けることの意義を説明頂いた。

「Ready:即応性、Set:組織改編等の効率化、Go:頼れるパートナー（ブリーフィングより）」これらのことを実現し、いざ出陣とすべく在日米軍は存在し続けていると理解した。

さらには日米軍事一体化が防衛局との関係重視のもと進められ、米陸軍の組織を陸上自衛隊のそれに近づけその上で共同訓練を実施、展開していくとのことである。

キャンプ座間はいまだ朝鮮戦争における「国連軍後方基地」として国連旗が米軍司令部棟前に掲揚されているのは認識していた。そしてこれも朝鮮国連軍地位協定に定められ本部が座間から横田に移った今現在でも横須賀、厚木、佐世保、嘉手納、普天間、ホワイトビーチの各在日米軍基地は国連軍が自由に利用することが出来る基地として機能している事実を再認識させられた。それは「日本政府が国連軍として基地をうけいれている。米軍は受け身（?筆者挿入）」とのブリーフィングからもこの点についての不可解さが増している。

### (2) 厚木航空基地について

こちらでのブリーフィングでもまずは厚木基地の存在意義「ヘリコプター部隊の駐留、緊急時における人員・物資輸送の中核、硫黄島訓練支援、人道・災害救援活動、地域交流、米軍・自衛隊との連携」以上6項目説明を頂いた。また、周辺9市と災害時覚え書きを結んでいるとのことであった。地域交流については祭りや今後予定しているアメフト大会等に加え、清掃などの奉仕活動にも力を入れているそうである。

ブリーフィング後の車窓ツアーにおいて「空母艦載機の訓練移転につきこちらは使用されなくなります。」と言ったアナウンスが度々された。確かに岩国基地への艦載機移駐が一応終了したのは事実だが、移駐先の自治体ではこれを如何様に受けとめているのか視察報告とは言えないが静けさを取り戻したかの厚木基地を後にしながら、そのことがますます頭から離れなくなっている。

艦載機移駐後の厚木基地の運用について陸自の飛行機・ヘリコプターの使用やオスプレイの飛来も含め状況把握の必要があることから、座間・厚木両基地の視察は毎年最低1回は行なうべきと考える。

2018年7月1日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

星野 久美子

## 視察所感

### (1) キャンプ座間

市役所より市所有のマイクロバスに乗りキャンプ座間へ入ったが、その際運転免許等の写真付身分証明書が必要となる。先日三沢基地へ視察に行った際には、身分証明書の必要は無かったと記憶している。

入門後、キャンプ座間内座間市側に位置する「在日米陸軍司令部施設」でブリーフィングを受ける。

在日米陸軍は自衛隊方面隊に連絡将校を派遣し、自衛隊との密な連絡・さまざまな調整が瞬時に行えるように組織していること、即応性と組織改編、日本側からの要求にこたえる行動組織づくりを行っていること（Ready/set/go）等が語られた。そして最後に、基地管理本部渉外部長から「フェンスに囲まれた基地では『何をやっているんだろう』『何か秘密のことが行われているのではないか』と考える方もいるかもしれませんが、でも、そんなことはありません。ですから、このような視察は大歓迎です。この後も見学ツアーを楽しんでください。」との言葉があった。しかし、わからないことが多いのも現実である。「日米共同部」についてはこのブリーフィングでは語られなかった。またこのキャンプ座間は、朝鮮戦争が激化した際、国連軍後方司令部になるとのことで、日本政府も同意をしている。日米の国旗と一緒に国連旗が掲揚されているのはそのため、との説明がされた。

ブリーフィングの後、キャンプ座間内をバスの中から見「車窓ツアー」が行われた。日本人スタッフにより随時説明が行われた。キャスナーヘリポートには2機、格納庫に1機ブラックホークがとまっていた。相模原市側の広いゴルフ場の横にはフェンスを隔てて高校がある。基地という非日常と市民の日常がこんなにも近いことに、どうしても疑問を感じてしまう。

### (2) 厚木基地

厚木基地に入門する際には、写真付き身分証明書と本籍がわかるものの提示が必要であった。パスポートもしくは運転免許証と記載印字票である。

入門後、フードコートで昼食をとったが、その場所には多くの日本人労働者、また、訪問者がいた。浴衣を着た女性たちは盆踊りの指導に来ているとのこと。厚木基地は日本国内に在し

ているが、基地内はやはりアメリカ、という感は否めない。余談ではあるがトイレの個室ドアにある荷物をかけるフックが大変高いところに付いており、身長 153cm 程度の私は非常に苦慮をした。

食事後ブリーフィングが「チャプレンセンター」で行われた。「チャプレン」とは、『チャプレンあるいはチャップレン（英: chaplain）は、教会・寺院に属さずに施設や組織で働く聖職者（牧師、神父、司祭、僧侶など）。語源的には、それらの施設に設置されたチャペル（英: chapel）で働く聖職者を意味するが、実際には必ずしもチャペルが存在するとは限らない。』ということ。

ブリーフィングは S 氏と日本政府が雇用している渉外部長の T 氏（彼女のエスコートで基地内へ）が説明。厚木基地の使命がまず語られた。

- ・ 第 5 空母航空団及び駐留部隊の支援
- ・ 物資人員輸送の拠点
- ・ 硫黄島訓練支援
- ・ 人道支援・災害救助活動
- ・ 地域交流
- ・ Joint use base share with JMSDF 海上自衛隊との連携

司令官は昨年 8 月に着任とのこと。彼のプロフィールが詳しく語られた。

厚木基地は固定翼機利用可能な管内唯一の米海軍基地であり、飛行場は海自との共同使用である。航空管制は海上自衛隊が行なっている。

また、基地と周辺 9 市とは災害時の覚書を取り交わしている。

地域交流は、基地開放を年 2 回おこなっており、小学校の ALT、卒業式への参列、小学校同士の交流、大和駅早朝清掃など、奉仕活動も行っている。座間市へもさがみ野桜まつりへの参加など、これからの交流をできるだけやっていきたいとのこと。

質疑応答で私は「市や県を通じて、また市民から直接、米軍機による爆音への苦情が寄せられていると思うが、その声は司令官・上層部へ届いているのか。また、戦闘機の岩国への移駐は完了したと聞いているが、騒音はどうなるか。」ときいた。S 氏からは「声は届いている。司令官は市民と直接話すこともある。騒音については、市民への負担と軍としての使命とのバランスの問題である。岩国への移駐は完了している。家族が少し残っている程度。天候による硫黄島訓練に関したこともあるが、今後騒音は軽減されると考えている。」との答弁があった。

移駐がされても、すべての騒音が無くなることはなく、落下物や墜落への不安は払拭されることはない、と感じた。

その後「車窓ツアー」が行われたが、その途中で聞いた「現在基地の外に住んでいる軍関係者も今後なるべく基地内に住居を移す方向で考えている。」という話が印象的であった。

基地を「共存共栄」と位置づける考えを持つ方々もいる。兵士も軍関係者一人ひとりとは友好的な関係を持つことは、素晴らしいことだ。

しかし、日米地位協定を考える時、住宅の上を爆音を撒き散らし飛行する戦闘機を見る時、やはり基地の存在に疑問を感じる。戦闘機は岩国へ移駐したが、岩国近辺では同じ苦しみを持つ人が増えているということ。いわゆる爆音のたらいまわしになっているのではないか。米国では守られている市民の権利が、なぜ日本では保障されないのか。

そのような想いを新たにする視察であった。

以上

平成30年7月1日

座間市議会議長

京免 康彦 殿

基地政策特別委員会委員

上沢 本尚

#### 視察所感

##### (1) キャンプ座間

米陸軍第1軍団前方司令部で広報室よりブリーフィングを受けた。現司令官少将の1、レディ（即応性）2、セット（明日へ向けてのあくなき組織改革）3、ゴー（日本、陸上自衛隊から信頼される）の方針に従って柔軟に対応している印象を受けた。基地内見学バスツアーでは特段新しい施設はなかった。

##### (2) 厚木海軍飛行場

米海軍広報室からのブリーフィングで空軍より海軍の方が保有する戦闘機は多いとの説明と厚木基地の水道は全て地下水で賄われているとの事は初めて知るところとなった。

タッチ・アンド・ゴーなどの訓練が必要な空母艦載機が全て岩国基地へ移駐となったが米軍運用上厚木飛行場を使用することは否定されなかった。今後の運用について注視したい。

以 上